

太田・南小

# プロ棋士が囲碁指導

教室で  
児童80人  
ルール解説、対局も



対局に臨む表情は真剣そのもの

子供たちに落ち着いて物事を考える力や礼儀作法を身に付けてもらおうと、プロ棋士を招いた囲碁教室が、太田市の南小（児嶋敦子校長）で開かれ、4年

生の児童80人がルールを学びながら対局を楽しんだ。講師は日本棋院東京本院の潘坤鉦初段が務めた。潘さんは「石は黒、白の順で打つ」相手の石を4子取る見

童もいた。ひざを突き合わせて挑んだ対局では、学んだルールやテクニクを生かして心理戦を楽しんだ。同院太田支部の会員4人も指導に加わり、対局の行方を見守った。

星野いずみさんは「初めは難しそうだったが、実際にやってみたら楽しかった。家や学校でも続けた」と魅力に引き込まれた様子だった。

同教室は、同院が2009年度まで文化庁からの委託で開いていたが、本年度から自主継続となった事業の一環。学校や学童クラブからの要請を受けて行っている。